

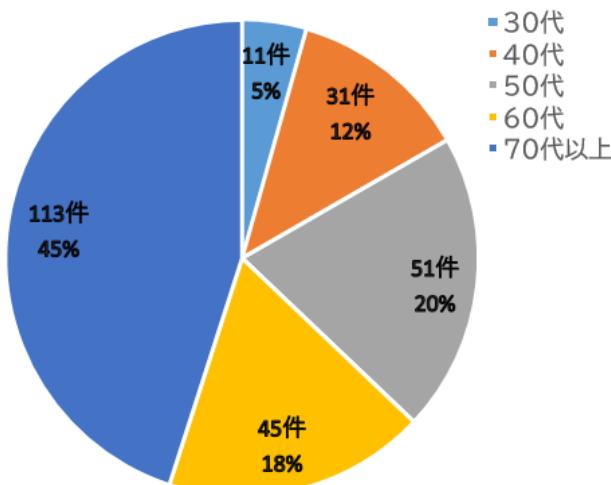
防災意識アンケート結果

令和8年2月

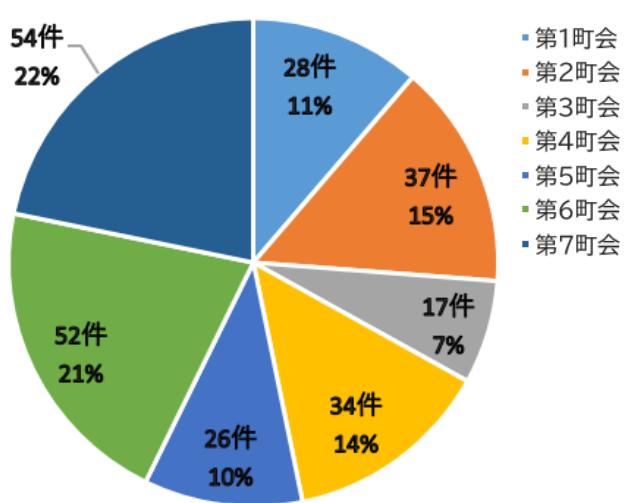
松原地区町会連合会／松原地区地域づくりセンター

令和7年7～8月に行った防災意識に関するアンケートについて、251件（町会加入者 248件／町会加入世帯数 796件、未加入者 3件）の回答がありましたので、主な結果について報告します。

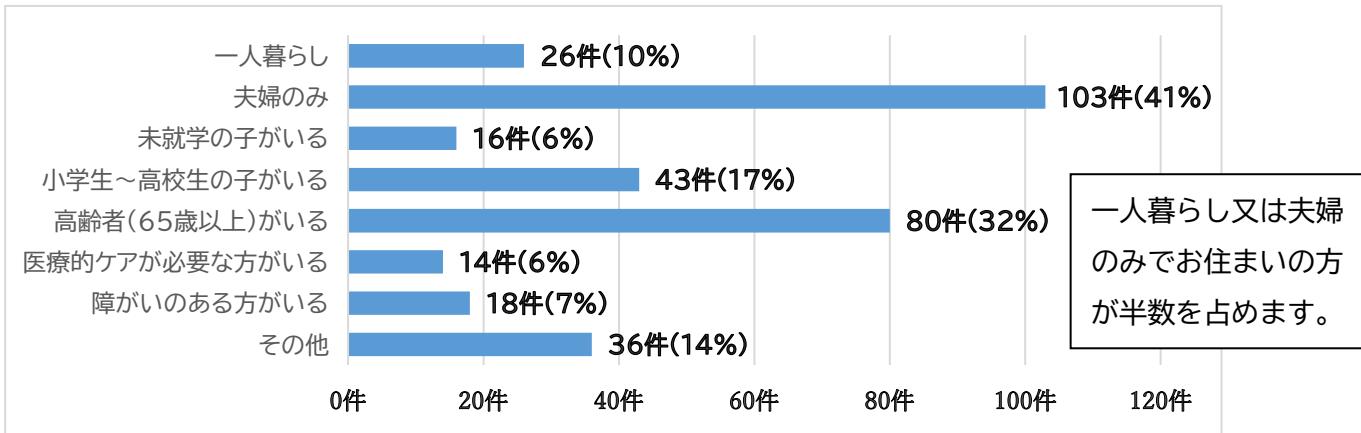
1 回答者の構成（年代別）



（町会別）

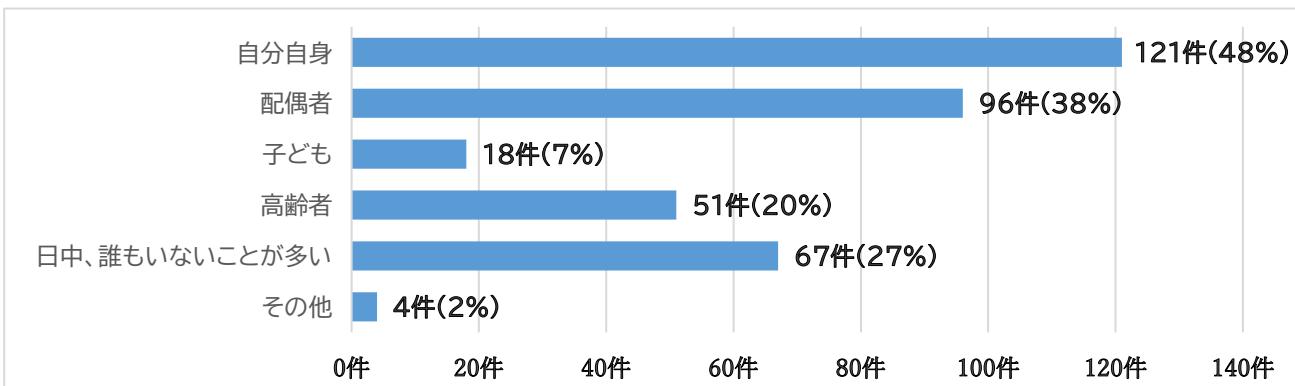


2 同居の家族構成

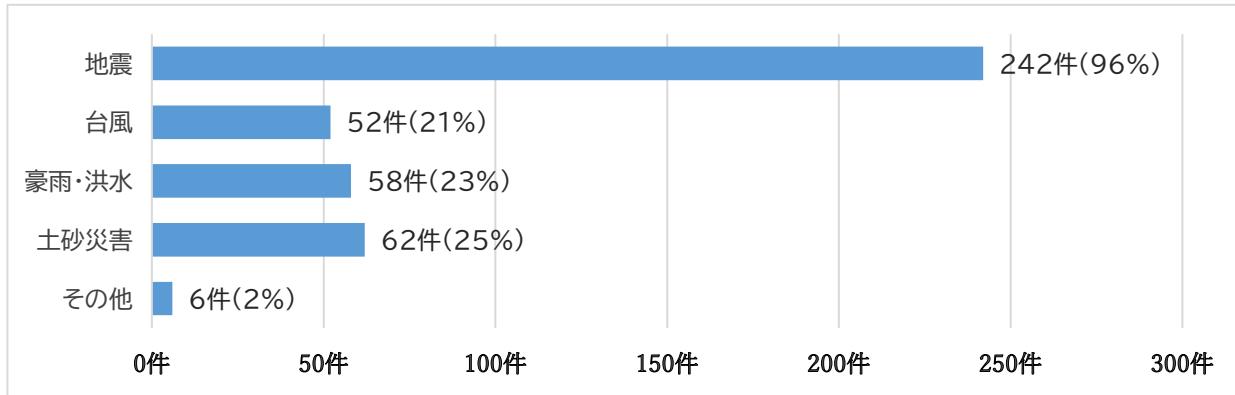


その他の回答：夫婦と成人の子、成人の子、兄弟、猫 等

3 日中、自宅にいることが多い方

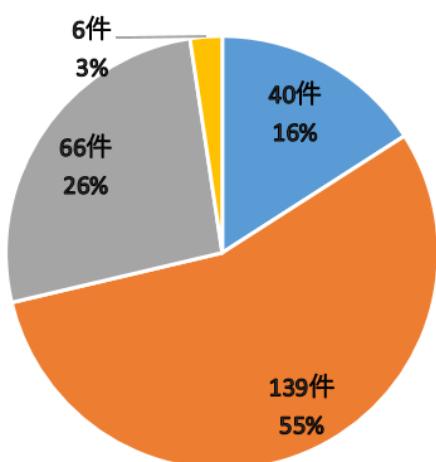


4 特に心配している災害



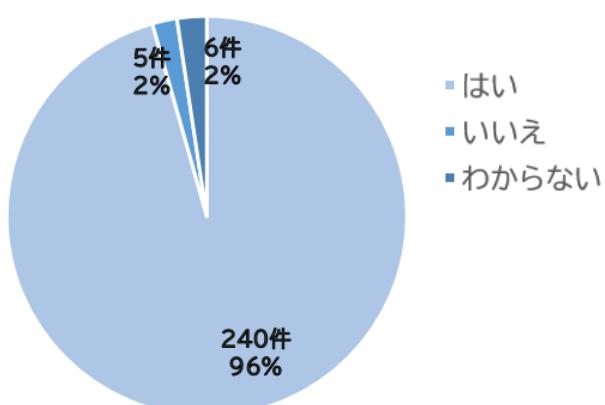
その他の回答：火事、雪害、竜巻・突風 等

5 地区の災害リスクの認知度



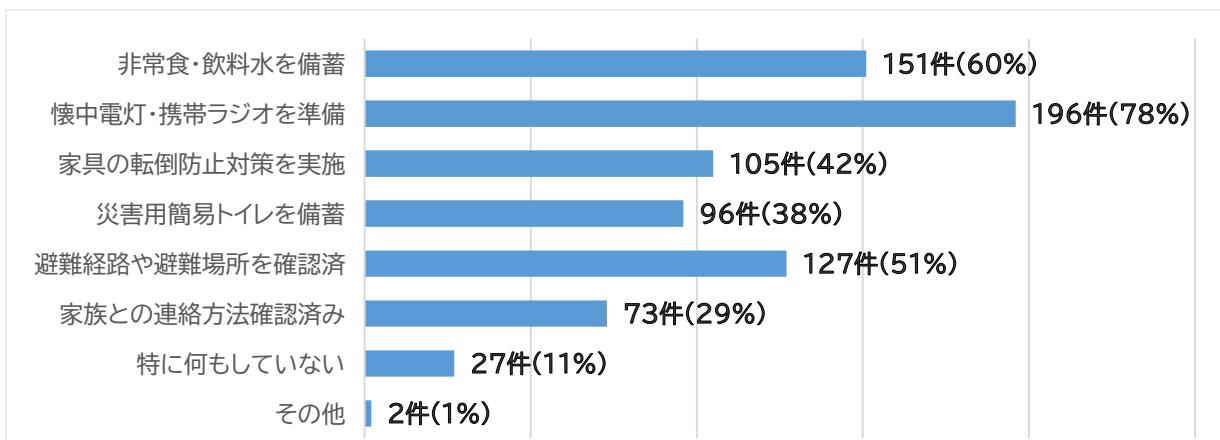
- ハザードマップでよく知っている
- ある程度知っている
- あまり知らない
- 全く知らない

6 地区の避難所の認知度



- ・災害リスクの認知度は 71%の方が「よく知っている」又は「ある程度知っている」状況
- ・地区の指定避難所はほとんどの方が知っています。
 - 明善中学校
 - 松原地区公民館（要配慮者優先）

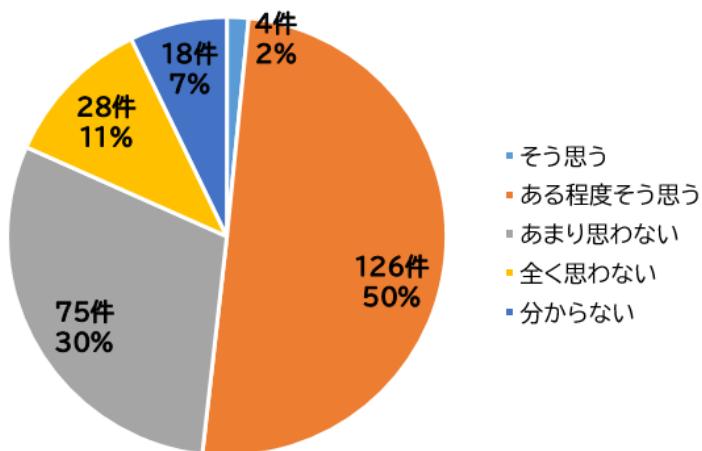
8 防災への備え



その他の回答：猫用フード・キャリーケース等、備蓄品は家の外（物置等）等

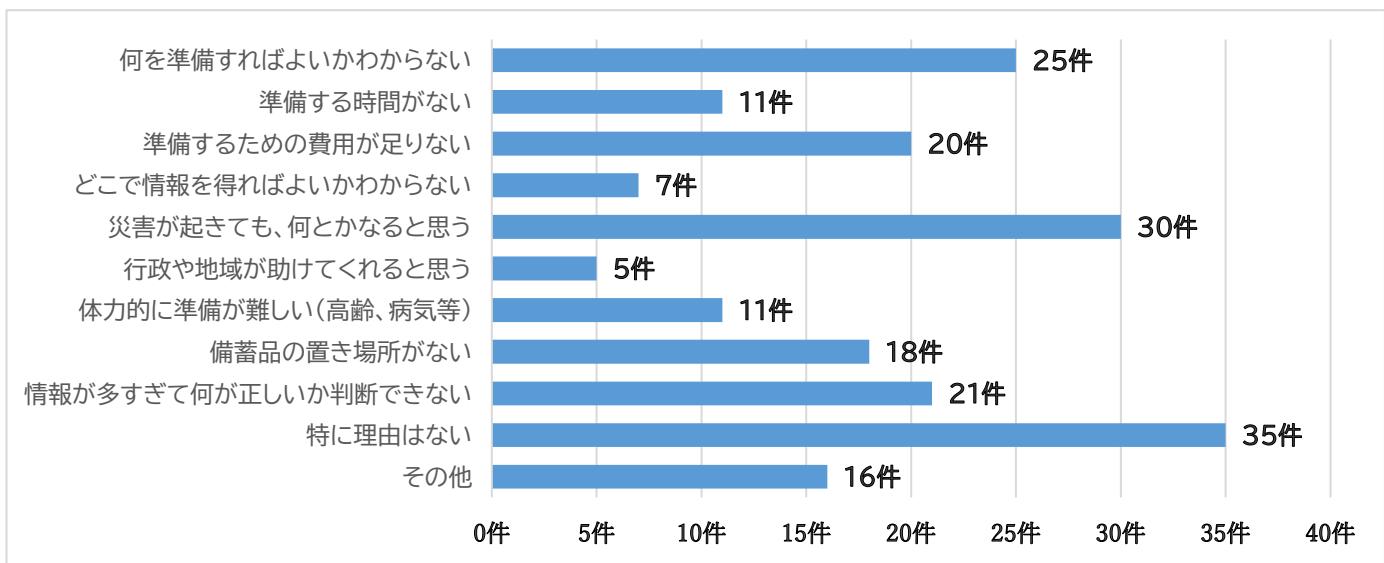
6割の方が非常食・飲料水を備蓄、約8割の方が懐中電灯・ラジオの準備していました。一方、災害用簡易トイレ等を備えている方は4割にとどまりました

9 災害の備えができるていると思うか



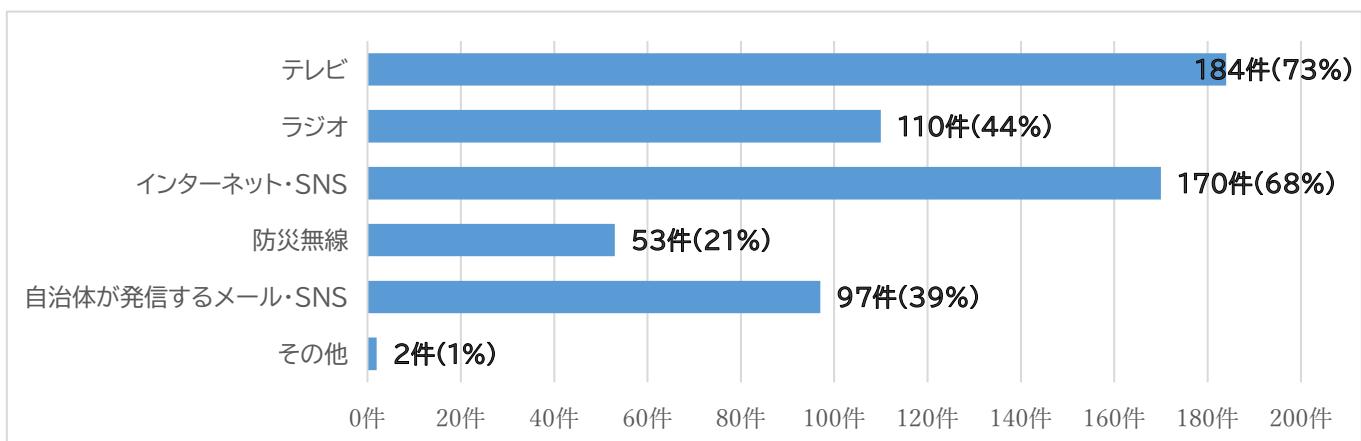
半数の方が「ある程度そう思う」と回答。「あまり思わない」「全く思わない」という方が約4割います。

10 9であまり思わない・全く思わない・わからないと答えた方の内災害の備えをしていない主な理由

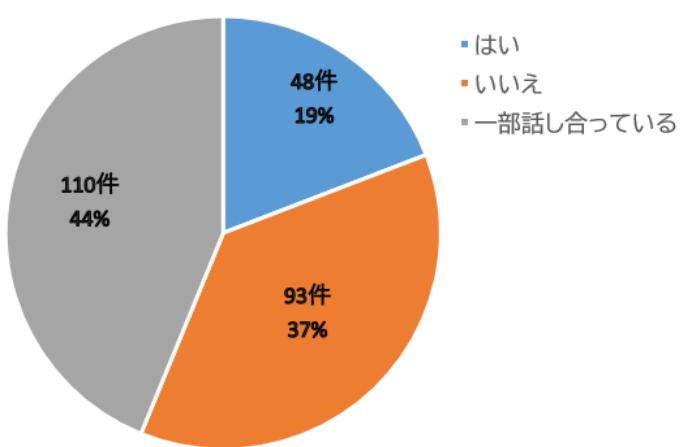


その他の回答 あまり危機感がない、ある程度備えをしているから、備蓄品の置き場をどこにするか、現実的に持ち出せない可能性がある、今まで災害で困ったことがないから 等

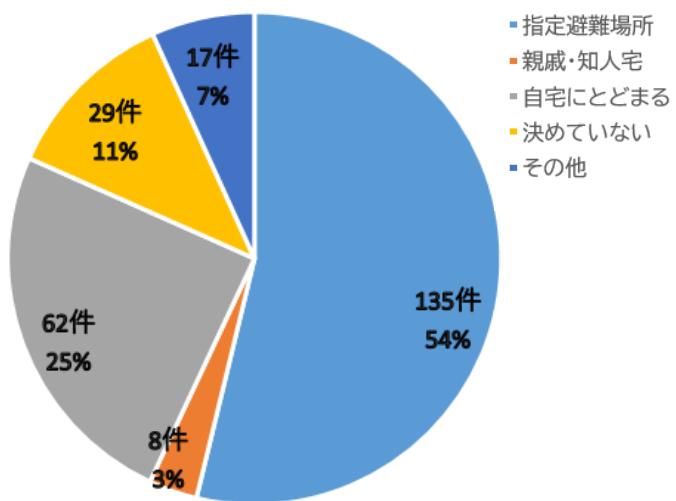
11 災害時の情報収集手段



12 災害時の連絡方法について 家族との話し合いの有無

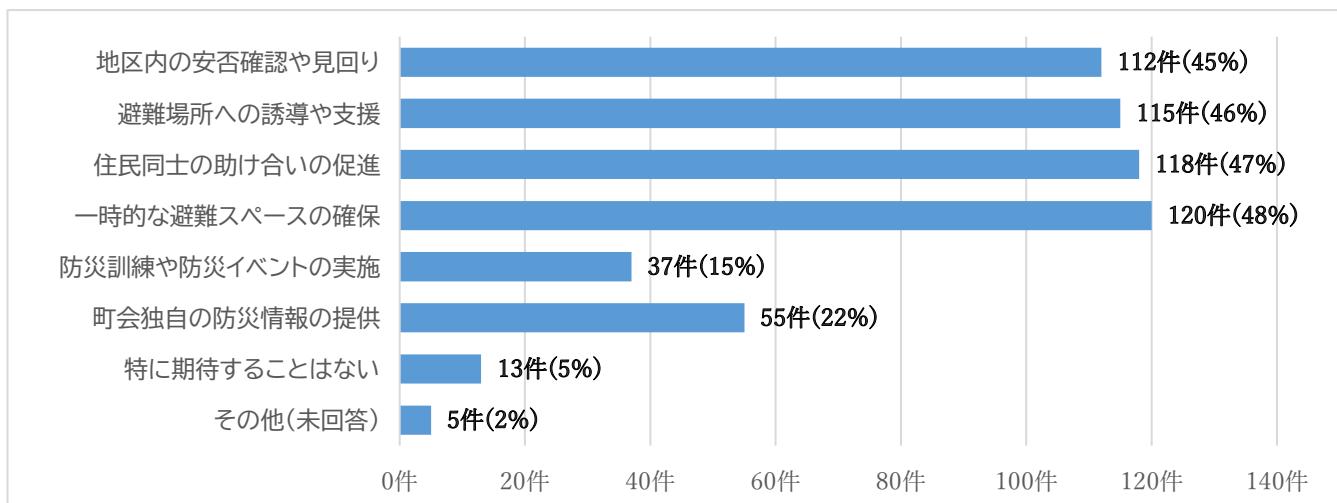


13 災害時の避難予定場所

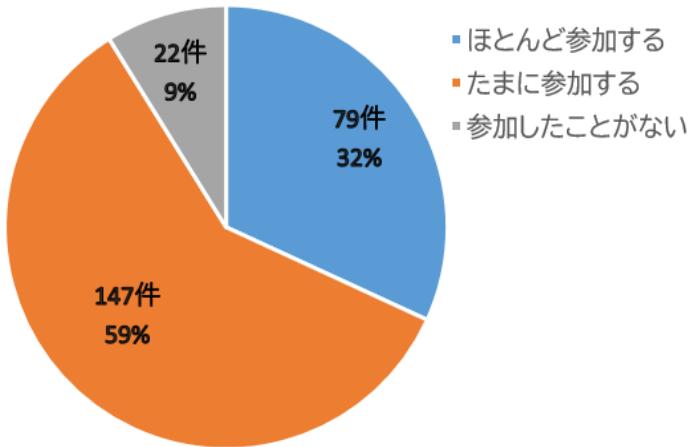


その他の回答 多くが「指定避難場所又は自宅にとどまる」と回答。他、災害状況による、会社 等

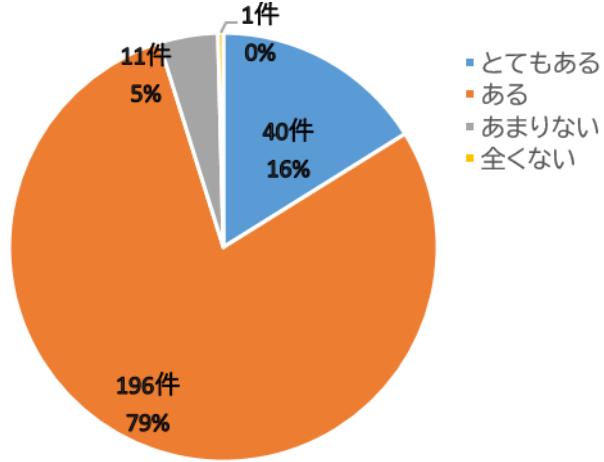
14 災害時に町会に期待する支援



15 防災訓練への参加



16 災害時に近隣住民等と協力して行動意識があるか



約9割の方が防災訓練に参加した経験あり、また災害時に近隣の方と協力する意識がある結果となっています。

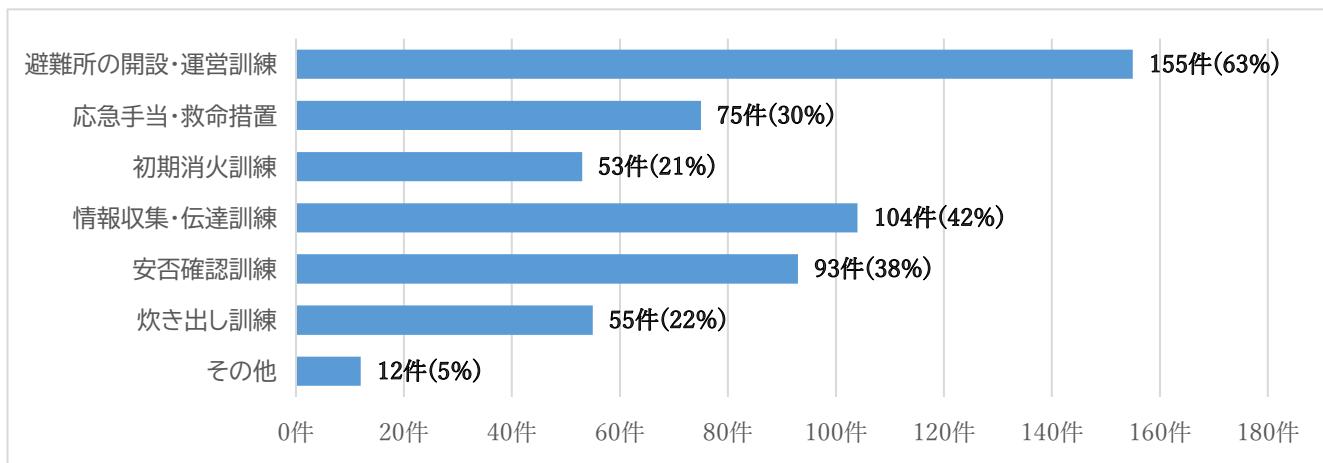
《15-1 防災訓練に参加したことがない理由》

20年くらい前に参加したとき、早朝から長時間にわたる訓練で時間がかかりすぎて、寒さと疲れが出た／高齢で認知症／仕事／予定が合わなかつた／生活に疲れてそれどころでない／障がいがあり、単独で出かけられない／役員でないから など

《16-1 災害時に近隣住民と協力して行動する意識がない理由》

近隣住民を知らない／認知症

17 町会が行う防災訓練で関心があること



その他の回答：忙しくて参加できない、未回答

18 自由記述回答（生成AIを活用して項目別に整理しています。）

(1) 情報伝達・マニュアル整備

- ・マニュアルやフローシート等を活用して配布してほしい
(各戸が準備や対策として出来る事及び班、町会として段階的に担うことを時系列にまとめて)
- ・迅速な情報提供：災害時の正確で迅速な情報伝達体制の構築
- ・断水・停電の情報と対応についていち早く情報を流してほしい

(2) 避難所・避難場所の課題

- ・明善中学校体育館に入りきらうのではないかと思うが、対策案を検討してほしい
- ・避難場所の確保。現状では大半が自宅待機になると思います。場所が余り広く無いので、自宅待機になる場所のサポートの強化。
- ・住民の人数に対して避難所が少なく、古い。災害時のトイレの備蓄や、プライバシーに配慮した避難環境づくりができるようして欲しい。
- ・避難場所開設の手順分担などと地域配分を明確に自分が何処にいても避難のどの辺りが集合場所かを知っています
- ・私は、第1町会にいますが、避難場所は、明善小中ですが、松原地区で1番低地なので、避難場所に行けるのか、不安です。寿台公民館等に避難出来るのか？

(3) 自宅避難者への対応

- ・自宅避難における物資の配布や情報をどのように伝達していくか
- ・情報伝達：避難所以外の住民への情報提供方法

- ・自宅避難や車中泊を想定した安否確認や必要事項の連絡の訓練
- (4) 要支援者対策
- ・高齢者・障害者支援：一人暮らし、病気の方への誘導方法・手順等
 - ・災害時に近隣の方と協力して行動する意識はありますが、介護度1の家族を見守りながらどれだけ協力できるかはわかりません。
 - ・平日対応：平日災害時の支援体制構築
- (5) ペット対策
- ・ペットを飼っている家庭では、家族としてともに助かりたいと望んでいると思います。行政として町会としてどのように対策しているのか知りたい。松原にどの位の動物がペットとしてくらしているのか把握しておくべき
- (6) 町会未加入者への対応
- ・町会未参加の方（アパートの住人 etc）の誘導・声かけはどのようにしたら良いか
 - ・町会に入っていなくても、そこをどう考えるのか議論が欲しい。大家さんや松本市との話が必要
 - ・防災は町会未加入者も参加しないと、地区防災の意味がない。地区防災なら、全員参加が必要
- (7) 防災訓練・意識向上
- ・参加率向上：訓練参加者の少なさへの懸念
 - ・災害訓練を頻繁に開催して、自身も含め、防災、減災となるよう、どんなケースにでも対応できるよう住民全体が災害に慣れておく事。経験を重なる事で自信もつき、住民同士の連携も回を重なる度に意識も変わるはず。
 - ・平日訓練：実際の災害を想定した平日訓練の必要性
- (8) 備蓄・物資
- ・基本備蓄：食糧、生活用品、簡易トイレの充実
 - ・電力確保：蓄電池、充電器の備蓄
 - ・使用方法周知：防災倉庫備品の使用方法を全住民へ周知
 - ・地区斡旋：非常食、簡易トイレ等の地区で斡旋
- (9) インフラ・設備整備
- ・飲用水確保：井戸、浄化設備、貯水タンクからの供給検討
 - ・雨水タンク：各家庭での雨水タンク設置推進
 - ・避難路整備：街路樹剪定、歩道補修による安全確保
 - ・土嚢準備：水害対策としての土嚢備蓄
- (10) 組織・体制
- ・防災関係者が1、2年で交代してしまうため、必要な事項がうまく引き継がれていない。
 - ・班会等人間関係を密にする。
 - ・運営スタッフ制度：避難所に常駐しない運営スタッフ制度
- (11) 特記事項・その他の意見
- ・建物・住環境 耐震工事支援：築20年以上住宅への積極的支援要望
　　防犯対策：災害時の犯罪・防犯への懸念
 - ・勤労世代への配慮 帰宅支援：災害時の住民優先帰宅権限等の付与
 - ・災害初期は役所はあまり当てにならないので発生時は住民の力が頼りです。役所には備えの時点で持てる力を最大限に發揮する様にお願いしたい